

ほとぼしる情熱こそが、聴く者を虜にする。

# 戸田 弥生

*Yayoi Toda Violin Recital*  
ヴァイオリン・リサイタル



©Akira Kinoshita

## Program

シューマン：ヴァイオリン・ソナタ 第2番 二短調 op.121

*Schumann: Violin Sonata No.2 in D minor op.121*

ベートーヴェン：ヴァイオリン・ソナタ 第8番 長調 op.30-3

*Beethoven: Violin Sonata No.8 in G major op.30-3*

\*\*\* \*\*

ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 op.108

*Brahms: Violin Sonata No.3 in D minor op.108*

2012年10月18日(木) 19時開演(18:30開場)

 浜離宮朝日ホール

～ 2012年11月 浜離宮朝日ホールは開催20周年を迎えます ～

全席指定(税込)6,500円(未就学児入場不可)

主催：KAJIMOTO/朝日新聞社

ピアノ：アブデル・ラーマン・エル＝バシャ

*Piano: Abdel Rahman El Bacha*

チケットのお申し込み

カジモト・イープラス 0570-06-9960

※音声自動応答で承りますが、オペレーター(10:00～18:00)もご選択いただけます。  
ホームページからお申込みいただけます(パソコンもケータイも同じアドレス)。

カジモト・イープラス

検索

<http://kajimotoeplus.com/>

0570で始まるナビダイヤル番号は、PHS、IP電話など一部の回線からは接続されない場合がございます。NTT加入電話、公衆電話などをご利用願います。

チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード: 176-136)

e+(イープラス) <http://eplus.jp>

朝日ホールチケットセンター 03-3267-9990

便利なケータイサイトもぜひご利用ください。iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ 対応チケットもご購入いただけます。

カジモト・イープラス



**KAJIMOTO**

※やむを得ぬ事情により内容に変更が生じる場合がございますが、出演者、  
曲目変更等による払い戻しはいたしませんので予めご了承願います。  
※未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

KAJIMOTO

〒104-0061 東京都中央区銀座8-6-25 河北ビル

TEL:03-3574-0550

<http://www.kajimotomusic.com/>

# 戸田 弥生さんのダイナミズム

池辺晋一郎(作曲家)

戸田弥生さんのヴァイオリンに、真の意味でのダイナミズムを感じる。力強い、精力的、とかエネルギッシュなどという意味で使われることが多い言葉だが、動的で絶えず流動するという意味がモトにある。僕が用いたいのはまさにその意味だ。もちろん戸田弥生さんの演奏の音勢の強靭さは、抜群に力強く精力的でエネルギッシュなのだが、さらに瞠目すべきは、アレグロでもレントでも、その音楽が常に蠕動していることだ。

音楽は生命体の一種だと、僕は感じている。息づき、絶えず一瞬先の未来を目指す。決して後戻りはしない。ひとつの動きが次の動きを生む。すべての音が「レゾナートル(存在理由)」を具備している。

その蠕動が、戸田弥生さんの音楽の裡に、どんな一瞬にも、在る。

いや、これはもしかしたら音楽と真摯に向かい合う者なら誰でも内蔵している感覚かもしれない。ところが、それを演奏として具現し、さらに聴く者へ伝えることができるか、となるとこれは別問題だ。

出光音楽賞受賞の1994年ごろから、僕は戸田弥生さんの演奏を聴いてきた。それからこんにちまでの間の技術的な飛躍も、経験を積んだ深みも、特筆できる。しかし僕が今声をあげて言いたいのは、音楽という生命体とともに蠕動する戸田弥生さんのすばらしさだ。

それこそを真の「ダイナミズム」と、僕は呼びたいのである。

## 戸田 弥生(ヴァイオリン) Yayoi TODA, Violin

1993年エリーザベト王妃国際音楽コンクール優勝以来、日本を代表するヴァイオリニストの一人として、圧倒的な集中力による情熱的な演奏で聴く者を魅了している。優勝から20年を数える2013年には“デビュー20周年”企画として、国内各地での演奏会を予定している。

日本の数多くのオーケストラはもとより、ニューヨーク・チェンバー・オーケストラ、モスクワ・フィルハーモニー、プラハ・チェンバー・オーケストラ、ハーグ・レジデンティ管弦楽団、スウェーデン放送交響楽団、ボン・ベートーヴェン・ハレ管弦楽団、北オランダ・フィルハーモニー、セント・マーティン・アカデミー管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー、ベルガモ室内オーケストラ、ドイツ・カンマー・フィルハーモニーなどに出演し、また、小澤征爾、ユーリー・シモノフ、シュロモ・ミンツ、ジャン・ジャック・カントロフ、アレキサンダー・シュナイダー、スタニスラフ・ブーニン、ジャン・フルネ、ガリー・ベルティーニ、マルタ・アルゲリッチ、フランク・ブラレイ、アブデル・ラハマン・エル＝バシヤ、ジェラルド・コセラとも共演している。

4歳からヴァイオリンを始める。1985年第54回日本音楽コンクール第1位。桐朋学園大学音楽学部を首席で卒業し、1992年アムステルダムのスウェーリンク音楽院に留学。

1993年エリーザベト王妃国際音楽コンクールに優勝して一躍注目を集め、本格的な活動を開始する。1996年にはニューヨークのジュリアード音楽院から“ディレイ・スカラシップ”を受け、1年間在籍。

1997年にニューヨーク・デビューを果たし絶賛を受ける。また、オランダの作曲家トリスラン・コイリス(1946～1996)から「ヴァイオリン協奏曲第2番」(1995)を献呈され、アムステルダム・コンセルトヘボウで初演した。

1999年にカーネギー・リサイタル・ホールで室内楽を中心としたリサイタル「Yayoi and friends」を開催した。

2009年にはアジアにも活動の場を広げ、上海で室内楽や武漢交響楽団との共演、韓国でジェジュ音楽祭に出演した。2010年は、4月にオランダとスペインでのヴァイオリン・マスタークラスを、11月にピアノのヴァレリー・アフアナシェフとのデュオを東京および福井で行ない、大好評を博した。

江藤俊哉、ヘルマン・クレバース、シャルル・アンドレ・リナール、ドロシー・ディレイの各氏ほかに師事。

CDは音楽之友社から「エネスコ、J.S. バッハ 他」と「J.S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ全曲」を、オクタヴィアレコードから、最新盤となる「20世紀 無伴奏ヴァイオリン作品集」のほか、「イザイ無伴奏ヴァイオリン・ソナタ全曲」、珠玉の小品集「子供の夢」をリリースしている。

国内外のコンクール審査員としても招かれ、2005年にはエリーザベト王妃国際音楽コンクールのヴァイオリン部門審査員を務めた。

1994年、第4回出光音楽賞を受賞。

使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与されている1740年製ピエトロ・ガルネリ。

オフィシャルホームページ<http://yayoi-toda.com/>



## アブデル・ラーマン・エル＝バシヤ(ピアノ) Abdel Rahman El Bacha, Piano

1958年、音楽家の両親のもとベイルート(レバノン)に生まれる。

67年、Z. サルキシアンにピアノを師事。10歳でC. アラウに将来を嘱望される。1974年フランス、ソ連、イギリスの政府より奨学金の申し出を受け、パリ音楽院に入学。P. サンカンの作曲科にも学び、ピアノ、室内楽、和声法、対位法の4科で首席卒業。

78年、エリーザベト王妃国際コンクールで審査員全員一致による優勝、併せて聴衆賞を受賞し、一躍世界の注目を浴びるが、すぐに演奏活動には着手せず、さらなる研鑽を積み、レパートリーを増やすことに没頭。

その後、世界の主要ホールでリサイタルを行う。インバル、スコロヴァチェフスキ、クリヴィヌ、フルネ、マズアなどの著名指揮者とベルリン・フィル、コンセルヘボウ、ロイヤル・フィル、パリ管、NHK交響楽団等で共演。

レパートリーは幅広く、約60のピアノ協奏曲の他、バッハから現代作品まで網羅。プロコフィエフの初期作品の録音ではシャルル・クロ・アカデミー大賞を獲得。他に、バッハやラヴェルの協奏曲、シューマン、ラヴェル、シューベルト、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲、ショパンのピアノ作品全曲、プロコフィエフのピアノ協奏曲全曲を録音。

98年フランス政府より芸術・文芸シュヴァリエ賞、202年レバノン大統領より功労賞の最高位メダルを授与。

エリーザベト王妃国際コンクール、ジュネーヴ国際音楽コンクールの審査員、エリーザベト王妃音楽院ピアノ科教授を務める。

優れたテクニックに支えられた威厳に満ち、明快でしかも静穏な演奏は各地で絶賛を博している。



### 浜離宮朝日ホール

東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館2階

TEL.03-5541-8710

【交通のご案内】都営地下鉄大江戸線「築地市場」駅A2出口すぐ  
エレベーターはA3出口